

平成30年5月9日

いわき市塚前古墳測量調査報告書の刊行および 日本考古学協会第84回総会における研究発表について

福島大学行政政策学類考古学研究室は、2017年3月に実施した塚前古墳の測量調査成果を総括する報告書『団子山古墳5・塚前古墳1』を2018年3月に刊行しました。

また、この成果を2018年5月27日（日）に明治大学で開催される日本考古学協会第84回総会において、「古墳分布北縁地域における後期大型前方後円墳の確認—福島県いわき市塚前古墳の測量調査より—」として発表します。

福島大学行政政策学類考古学研究室（教授 菊地芳朗）は、2017年3月にいわき市小名浜字林城に所在する塚前古墳の測量調査を実施し、同古墳が古墳時代後期中ごろ（西暦6世紀中ごろ）に造られた大型前方後円墳の可能性が高いことを確認しました。また、この成果を同年5月10日の福島大学第101回定例記者会見で速報し、比較的大きな反響を得たところであります。

そして、同研究室は、この測量調査成果を正式にまとめた報告書『団子山古墳5・塚前古墳1』を2018年3月30日付で刊行しました。

同書では、塚前古墳の規模を次のとおり結論づけました。

墳長	；	95～120m
後円部直径	；	53m
前方部長	；	54～70m
前方部幅	；	45～65m

規模に比較的大きな幅があるのは、今回の調査が測量であって、特に前方部に関する確実な根拠が乏しいためですが、いくつかの状況証拠を総合すると上記の規模を下回る可能性はほとんどなく、塚前古墳が東北最大の後期前方後円墳であることが確実になりました。

報告書では、塚前古墳の規模とともに、いわき地域や東日本における塚前古墳の成立背景や存在意義について考察を加えています。

また、この報告書は600部印刷し、福島県内外の教育研究機関に送付して今後の調査研究の材料として提供しています。

そして、この報告書でまとめた成果を、2018年5月27日（日）に明治大学駿河台キャンパスで開催される一般社団法人日本考古学協会第84回総会において、「古墳分布北縁地域における後期大型前方後円墳の確認—福島県いわき市塚前古墳の測量調査より—」として発表します（発表者：菊地芳朗）。会場は第2会場（東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1階1012教室）で、発表時間は11:15～11:40です。

この研究発表では、報告書でまとめた成果とともに、報告書には掲載しきれなかった多くの図やカラー写真も用いながら、塚前古墳の特徴や意義について、より詳細に報告する予定です。

なお、報告書につきましては、福島大学学術機関リポジトリ (<http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/>) に後日掲載する予定です。

（お問い合わせ先）

行政政策学類教授 菊地 芳朗

電話：024-548-8276

メールアドレス：kikuchi@ads.fukushima-u.ac.jp